3つのひかり　未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

丁寧に
一人ひとりを大事に
社会との関わりの中で
学生を育てます

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
TEL:082-830-1500(代)　FAX:082-830-1556
https://www.hiroshima-cu.ac.jp/

いちだい地域共創プロジェクト

7つのプロジェクトを紹介します!

いちだい地域共創プロジェクトは、本学の教職員や学生が地域の関係者等と協働して、地域社会が直面する課題の解決に取り組むことで、広島広域都市圏及びその周辺地域の活性化と持続的発展に貢献することを目的として、2022 年度から始めた事業です。

◀ いちだい地域共創プロジェクトの詳細はこちらのQRコードもしくは大学ウェブサイトをご覧ください。

1 広島・横川発！アンジュヴィオレ広島と国連ユニタール協会による「開発と平和のためのスポーツ（Sport for Development and Peace)」としての社会貢献

代表者：国際学部 講師　山平 芳美
課題提案地域団体：特定非営利活動法人 広島横川スポーツ・カルチャークラブ

9/11

「ピースマッチ」

イベント参加者の声

・広島だからこそ、あらためて平和について考えることができました。
・社会の課題に対して、サッカーを通じてできることはないか考える機会になりました。

地域課題・実施内容

広島・横川の地域住民が運営する女子サッカーチーム「アンジュヴィオレ広島」と一般社団法人国連ユニタール協会、広島市立大学が協働して、一見スポーツとは関係ないと思われる、紛争、貧困、ジェンダーといった社会課題に、スポーツの力を動員する「開発と平和のためのスポーツ（Sport for Development and Peace）」の活動に取り組み、広島広域都市圏及びその周辺地域の持続的発展や広島だからこそ取り組むことができるグローバルイシュー（Global Issue）の解決に向けて貢献することを目指しました。

活動状況

「誰もが自由にスポーツに取り組むことができる世界」というビジョンの共有を目指して、平和を共に願う一助となるよう、アンジュヴィオレ広島の9月11日のホームゲームを「ピースマッチ」と銘打って、会場で鶴を折るイベントを開催しました。そして、10月27日に折り鶴を新城選手と共に平和記念公園に奉納しました。また、試合の他にも10月22日「開発と平和のためのスポーツ」をテーマにオンラインセミナーを開催しました。

2 SNS情報を活用した観光地魅力可視化プロジェクト

代表者：情報科学研究科 講師　目良 和也
課題提案地域団体：一般社団法人広島県観光連盟（HIT）

地域課題・実施内容

広島県観光連盟では、広島がリピータブルな観光地となることを目指して、各種データを分析・発信していますが、これまでの観光データの取得はアンケート調査など過去データの分析がメインとなっており、リアルタイムでの情報取得が困難でした。そこで、本プロジェクトでは、広島の観光客がSNSへ投稿するコメントをデータマイニングし、観光客が現在感じている広島の魅力や受入環境等の不満を可視化することを目指しました。

活動状況

大学院授業科目「プロジェクト演習」と連携し、SNSで使われるハッシュタグの出現傾向と観光地との関係についての分析と、各観光地についてのロコミからテキスト解析技術を用いて観光地の魅力や不満を可視化する研究を行い、実際に観光地を訪れて分析結果を検証しました。プロジェクト終了後も広島県観光連盟の方が利用できるように分析プログラムを改良する予定です。

分析プログラム

地域団体の声

学生さん達の演習自体やプレゼンなどの取り組みがとても実践的で、期待以上です。

3 アーティストのために整備した「AIR Hiroshima Studio」と「AIR Hiroshima Gallery」の活用による地域の文化・芸術の振興への寄与

代表者：国際学部 准教授　石谷 治寛
課題提案地域団体：横川エリアマネジメント連絡協議会

地域課題・実施内容

横川で整備した「AIR Hiroshima Studio」と「AIR Hiroshima Gallery」の2つの空間の運営規約の策定、ロゴデザインの作成、利用システムの構築、効果的な広報活動などを行うことをとおして、地域の文化・芸術の振興を目指しました。

活動状況

横川では毎年9月に実施するイベント「横川商店街劇場」において、その運営主体であるシアアートリエ「横川創荘」及び横川商店街連合会などと協力しながら、AIR Hiroshima Gallery をインフォメーションセンターとして活用しました。10年にわたるイベントのポスターに併せて写真を展示し、地域でのアート活動を振り返り、今後の空間活用の話し合いの機会を広げました。

地域団体の声

横川商店街劇場を大学と共創して、街の格が上がりました。地域に開かれた鑑賞機会を今後も続けて欲しいです。

横川商店街劇場 2022　会場の様子

4 渡日生のための宿題お助けプロジェクトと渡日生支援者向け日本語教育セミナーの開催

代表者：国際学部 准教授　重田 美咲
課題提案地域団体 :NPO 法人安芸高田市国際交流協会

地域課題・実施内容

外国にルーツのある子どもたちにとって、日本の夏休みの宿題は大変です。そこで、本学の学生が夏休みの宿題支援を行うことにより、子どもたちに宿題に取り組む意欲を高めてもらい、自信を持って笑顔で2学期を迎えてもらうことを目指しました。加えて、渡日生支援を行う地域団体に対して「日本語教育セミナー」を行うことで、渡日生支援者のより一層のスキルアップを目指しました。

活動状況

「宿題お助けプロジェクト」には、小1から中2までの子どもたちが集まりました。自己紹介やゲームをした後で、本学の学生が夏休み帳、読書感想文、工作、ポスター等の宿題支援を行いました。

「日本語教育セミナー」は、年少者日本語教育と教科学習を主なテーマとして開催しました。支援者の方々の悩みも聞き、助言を行ったり、共に解決策を考えたりしました。

地域団体の声

日本語教育セミナーを受けてから、自信を持って子どもたちの支援に取り組めるようになりました。

宿題お助けプロジェクト

子どもたちの声

宿題お助けプロジェクトのおかげで助かった！

5 似島の歴史ガイドボランティア活動に資する教材制作

代表者：社会連携センター 特任教授　國本 善平
課題提案地域団体：似島歴史ボランティアガイドの会

地域課題・実施内容

似島は、かつて陸軍検疫所などが設けられ、被爆後に多くの被害者が搬送されました。現在も旧陸軍検疫所の一部、陸軍埠頭等が残されています。2021年4月にできた「似島平和資料館」を拠点に、地元の似島歴史ボランティアガイドの会が歴史遺構のガイドを行っています。しかし、案内のための説明資料が不足しているため、本学の学生が現地で遺構やボランティア活動に触れ、資料を調査・学習し、案内用の紙芝居を制作しています。

活動状況

本学の学生が、7月に似島臨海少年自然の家に滞在して、似島戦跡フィールドワークを行い、ガイドの会会長の話を聴き、地域文化の継承などを目的に紙芝居の制作・講演活動をしているまち物語制作委員会の代表を講師に紙芝居づくりについて学習しました。

その後、全員で紙芝居のテーマや内容を話し合い、シナリオ班、調査班などに分かれて、制作に取り組んでいます。完成後は似島での披露を予定しています。

地域団体の声

コロナ禍の今、かつて似島が果たした役割にスポットを当てた、旧陸軍検疫所の紙芝居づくりに期待しています。

似島平和資料館の前で

似島歴史ボランティアガイドの会との交流

6 せんだまちアートプロジェクト

代表者：芸術学部 講師　今野 健太
課題提案地域団体：にぎわいラボ東千田

地域課題・実施内容

広島市中区千田町には広島大学があり、かつては学生の町として賑わっていましたが、キャンパスの移転や住民の高齢化により空き店舗が増え、活気の減少が地域の課題となっています。

そこで、「にぎわいラボ東千田」と芸術学部の教員や学生が協力して、意見交流会やワークショップ、作品が街に出ていくような展覧会を企画・開催し、芸術を通した地域の連携と町の活性化を目指しました。

地域の方々の声

・千田出身ではない人が千田に関心を持っていることは、地域の人間としてとても新鮮です。
・イベントに参加した方が千田を訪れ、お店に立ち寄ってくださいました。

活動状況

9/24

三松拓真 × 広島電鉄 × 広島市立大学
連携プロジェクト
「電車でアート散歩」

芸術学研究科の三松拓真さんの木彫作品を展示した広島電鉄の貸し切り電車に乗って、作品を鑑賞しながら広電本社前から広島駅までの区間を周遊することで、千田町への人の往来を促すイベントです。

10/16

ワークショップ
「石と砂で絵具をつくろう」

芸術学研究科の亀川果野さんが講師となり、鉱物や千田町で拾った石、広島地域で採集した土や川砂を砕いて岩絵具を作り、その土地ならではの色彩を発見するイベントです。

7 コロナ禍でも健康体操で交流したい

代表者：情報科学研究科 准教授　岩根 典之
課題提案地域団体：比治山学区社会福祉協議会

地域課題・実施内容

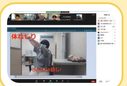
比治山学区社会福祉協議会から、「集会所などに集合しなくても、ゲーム感覚でICTを使って交流できる健康づくり活動がしたい。また、スマートフォンを活用できる高齢者を増やしたい」という課題の提案をいただきました。この背景には、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、高齢者の介護予防・健康づくりや交流活動に支障が出ているという事情がありました。そこでさまざまな体操環境を設計提案し、楽しく持続可能な活動環境の整備を目指しています。

活動状況

各会場の活動状況や体操環境の事前現地調査を行い、スマホ・タブレット等の導入と、オンライン環境の整備を進めました。スマホ講習会と連動したハイブリッド体操環境体験会での「いきいきシステム」の提案、段原地域包括支援センターの各種体操・定期デモのオンライン実施などの活動を進めています。

地域団体の声

参加者はオンラインでの交流に最初は不慣れでしたが、今ではこの取り組みにより、他の地域へ仲間を広げ、オンラインでつながることに意欲的です。



広島市立大学 広報誌 「west breeze」

W.B.

2022-03　No.88

Hiroshima City University

活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

ひとつひとつの出会いを大切に

国際学部国際学科4年　井田（いだ） 萌々香（ももか）さん

本学での学びを生かし、これまでさまざまな企画に取り組み、現在はオルデンブルク大学（ドイツ）の言語文化科学部に留学中の井田さんに、市大での学びや活動について伺いました。

―本学を志望した理由を教えてください。

私は中学から英語を学び始め、その頃から日本語以外の言語を学んだり使うことに興味がありました。高校1年生の時に短期でオーストラリアに留学し、ホームステイ先でドイツ人の学生と仲良くなったことをきっかけに、大学ではドイツへ長期留学をしたいと思い、市大の国際学部を志望しました。また、市大には「平和」に関するカリキュラムも充実していることを知り、「広島」という場所で「平和」について学ぶこと、そして「広島」という地ならではの目線でも多文化共生や国際社会について学べることに興味がありました。

「ひろしまドイツクリスマスマーケット」の動画撮影の様子

―現在は、どんなことを学んでいますか。

1、2年生の時は、多文化共生プログラムを中心にさまざまな授業を履修しました。その中でジェンダー学に出会い、学んでいくうちにその面白さに惹かれていきました。3年生からは、ジェンダー学のゼミに所属しています。特に関心を持っているのは、日本軍「慰安婦」問題やナチ時代の強制収容所における強制性労働といった性暴力、そしてその「記憶」についてです。社会の中にはジェンダーだけではなく、セクシュアリティ、民族、国籍、障害、階級、人種などに基づいて社会的・歴史的に作られたさまざまな差別が存在し、これらの差別が交差することで複合差別が生まれ出ます。このような交差性への認識が不足することで、見えなくなる・語られなくなる被害や差別が出てきてしまうのです。

ドイツ語の最後の授業にて

2年次のゼミではフードダイバーシティについて学びました

―授業以外に取り組んでいる活動等について教えてください。

私は3年生の時に「ひろしまドイツクリスマスマーケット」とジェンダーをテーマにしたイベントに取り組みました。「ひろしまドイツクリスマスマーケット」は、ドイツと広島の文化交流の発展をコンセプトに2015年から毎年開催されていますが、新型コロナウイルスが拡大した2020年は対面での開催が中止となりました。そこで、オンラインでもクリスマスイベントを楽しめるようにホームページ上に特設サイトを設け、動画コンテンツを数名のメンバーと作成しました。私自身はMCを務め、ベルー、インドネシア、アメリカ、カナダ、そしてドイツから来た5人にそれぞれの国のクリスマスについて紹介してもらったり、食べ物や習慣の違いなどを一緒に話したりと、面白い経験ができました。また、市大生チャレンジ事業の一環として、国際学部所属の友人と一緒にワークショップを企画しました。ワークショップではジェンダー・セクシュアリティというテーマを扱い、それにまつわる疑問や生きづらさを共有することで、一体自分達が何に疑問や生きづらさを感じているのかを可視化・言語化することで、そしてそれらを生み出し、再生産している社会に目を向けられるようになることを目標としました。

―市大のいいところを教えてください。

国際学部の特徴の一つは少人数教育で、先生方との距離が近く、勉強や研究を進めやすい環境であると感じています。また、ディスカッションやグループワークを取り入れている授業も多く、学生が積極的・主体的に学べる環境が充実しています。さらに英語で開講される授業もあるため、留学生と一緒に学べる機会もあります。

―最後に、後輩たちへメッセージをお願いします。

私は偶然広島で大学生活を送ることになりましたが、広島にやって来たからこそ巡り会えた人たちや学問があり、それらの出会いからまた新たな出会いにつながったことが、イベントを企画するきっかけにもなりました。現在はドイツの総合大学に留学していますが、ここでも多くの人たちと出会い、その人たちの考え方や行動から学ぶことがたくさんあります。出会いは、自分自身がより成長でき、新しい興味も生まれるきっかけになります。積極的にさまざまな人に出会い、その出会いを大切にしてほしいです。

ドイツで出会った友人たちとピクニック

井田 萌々香（いだ・ももか）
国際学部国際学科4年
（現在は、オルデンブルク大学（ドイツ）の言語文化科学部に留学中）

市大生チャレンジ事業

2022年度に採択された3件をご紹介!!

「市大生チャレンジ事業」は、学生が自ら選定した課題や地域などから提案されたテーマに基づき、大学から一部費用の助成を受けて実施する、社会貢献活動です。

小学生とつくりだす 絵おと芝居

代表者　佐藤（さとう） 優（ゆう）（国際学部国際学科3年）

私たち「Hiroshima Young Peace Builders」は、広島から平和を発信するために活動している団体です。平和の発信の仕方は多様ですが、私たちは「物語」を伝えることで平和を発信しています。今回は、広島市南区にある「旧広島陸軍被服支廠」をテーマとした物語を、被爆者のお話を基に制作しました。その物語を小学生に朗読し、児童たちに一番印象に残った場面を絵で表現してもらいました。

今回のプロジェクトでは、広島県内外から71校の作品が集まりました。その作品を基に、紙芝居作家の方に原画を作成していただき、「絵おと芝居」とりつかたで発信しています。「絵おと芝居」とは、スクリーンに紙芝居を映し出し、朗読や音楽とともに物語を伝える表現方法です。多くの人に私たちが制作した物語を見ていただき、この活動が、誰かの平和について考えるきっかけ、ヒロシマのことを知るきっかけになればよいと願っています。

小屋浦集会所（安芸都坂町）での朗読

小学生による作画の様子

展覧会「自然派展 -芽出（めで）-」

代表者　トウ シキ（芸術学研究科（博士後期課程）総合造形芸術専攻2年）

私たちは、廿日市市を拠点とする「はつかいち森のあそび場協議会」と連携し、芸術学部の留学生が中心となり、アウトドアスポーツ施設「佐伯国際アーチェリーランド」を舞台に、アート展覧会「自然派展 -芽出-」を開催しました。（9作家、全12作品）

中山間地域の方々と海外出身の留学生との触れ合いを通じて、多様な視点を得ることができるローカルな展覧会を目指しました。アートファンがスポーツに、スポーツファンがアートに触れる環境を作り、誰でも鑑賞できる参加しやすい野外展示に挑戦するなど、展覧会の可能性を広げていきたいと考えています。

展示期間中は、森の中にある木や草を用いて「森織物」を制作するワークショップを開催し、地域の方々や知的障害を持った子どもたちとアートを通じた交流を行いました。地域とのつながりを大切にして本事業を継続し、今後も地域の認知度の向上や中山間地域の発展に貢献していきたいと考えています。

ワークショップ開催風景

展示作品の様子

ポスター

大崎上島「空き地再生プロジェクト」
～大串の方々との共同制作を通した空き地と竹の活用方法の提案～

代表者　川口（かわぐち） 春（はる）（芸術学部デザイン工芸学科1年）

私たちは学生4人で「uksy」というユニットを作り、「大崎上島空き地再生プロジェクト」を実施しました。この活動は、大崎上島町の大串地区における竹を活用した空間デザインにより、賑いの場を作るという取り組みです。

現地でのヒアリングを行う中で、今回私たちは①島内の空き地の増加、②竹林の管理不足による竹害、③地域における交流の場の不足という大崎上島における3つの課題に着目しました。

これらの課題を芸術の力で解決できるような取り組みを企画し、1か月間大崎上島に滞在して活動を行いました。竹の伐採から始め、高校生との共同制作イベントを企画・実施するなど、地域の方と交流を深めながら活動を行いました。竹のドームや机・椅子の設置に当たっては、島の方やアドバイザーの教授に助言してもらいながら、安全性やデザインにもこだわりました。

島の方からは、「新しいものを作ってくれてありがとう」「使うのが楽しみだ」といううれしい言葉を頂きました。今回の活動で、プロジェクトの企画・実施の大変さを知ることもに、芸術の力を使った活動にやりがいを感じました。

今後、uksyで行っていくのはグループ展です。それぞれのメンバーが制作する作品を多くの人に見てもらえる機会を作りたいと考えています。

作業の様子

完成した竹のドーム

留学体験記

多民族国家で自分を知る

国際学部国際学科4年　宮崎（みやざき） こも（こも）

マレーシアに到着した日、「街の人々の人種、服装、言葉はそれぞれ違う」と事前に分かっていたものの、文字どおり多民族国家ぶりに衝撃を受けました。マレーシアには、主にマレー系、中華系、インド系の3つの民族が暮らしています。それに加え、たくさんの外国人も暮らしています。

大学の授業では、現地の学生、留学生は皆、積極的に意見を交わしており、さまざまな視点からの考えを知ることができ、面白かったです。しかし最初は、私の英語力では言いたい事の半分も言えず、授業の度に落ち込んでいました。特訓の末、自信を持って英語で自分の意見を言えるようになってからは、もともと人と話すことが大好きな私にとって、授業での討論はとても楽しい時間になりました。授業では、国際問題について日本人としての意見を求められることも多くありました。これを機に、日本という国や、自分自身について考え直すことができました。

また、私の留学は、友人の存在なくして語ることはできません。マレー語テスト前日の猛勉強に付き合ってくれるマレーシア人の友人。大げんかしたけど、今では親友の韓国人の友人。いつも人生相談に乗ってくれるインドネシア人の友人。留学生活でさまざまな人と関わり合えたことで、たくさんのことを感じ、考え、自分自身を深く知ることができました。留学から得た学びは、私の将来の指針になることでしょう。

友達の誕生日会

コタキナバル市立モスクにて

大学のカルチャーフェスティバル
（左端が宮崎さん）

留学情報
宮崎さんは、文部科学省等の官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～に応募し、新興国コースに採用。第14期生としてマレーシア科学大学（本学の海外学術交流協定大学）に2022年4月～2023年3月まで留学中。大学での授業を受講しながら、現地のスラム調査を行い、日本の中小企業が支援可能な国際協力を探求しています。

諦めかけていた留学という夢

国際学部国際学科4年　西川（にしかわ） 李乃（りの）

私は高校生の頃から韓国に興味があり、ずっと韓国に留学することが夢でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で留学はできないと諦めていました。しかしそんな中、大学を通して広島県の留学プログラムを知りました。後悔はしたくないと応募したところ無事合格することができ、夢であった韓国留学を実現させることができました。

私が留学している嶺南大学韓国語教育院は語学学校で、学校では韓国以外の国の方たちと主に韓国語を使って交流しています。特に親しくなったタイリア、ラトビア、スウェーデンの留学生たちと関わる中で、私にはない考えを知ることができ、さまざまな状況下で頑張っている姿を見て勇気づけられた反面、恋や将来に対する不安などの悩みは世界共通なのだとも感じました。現在韓国に来てから半年ちょっとが過ぎ、最初のようなドキドキワクワクという新鮮な感覚はなくなったものの、韓国人の友達と韓国語で会話できるようになった、韓国ドラマの内容が日本語字幕なしでもある程度理解できるようになったりと、自身の成長を感じ、充実した毎日を送ることができています。

もちろん、韓国語が伝わらなかったり、韓国語で言いたいことが言えず落ち込むこともあります。しかし、これも留学していなかったら感じることはなかったと思うと、貴重な経験ができていることに感謝しかありません。よく言われる言葉ですが、人生は一度きりです。今回の留学のように行動するかしないかで迷ったら、これからも行動できる自分でありたいと思います。

留学情報
西川さんは、広島県の嶺南大学（韓国）韓国語研修プログラムに応募し、合格。先方大学や慶尚北道の助成（授業料半額免除、寮費や食費の支給）を受けて、現在大学内の語学学校に2022年3月～2023年2月まで留学中。

4級の修了式（右から4人目が西川さん）
※西川さんは大学内の韓国語教育院に所属し、韓国語の授業のみを受けています。レベルに応じてクラス分けされ、全6レベルあります。（1.初級～6.上級）

ソウルのカフェ

おめでとうございます

■本学大学院で認められた論文博士学位取得者

氏名（敬称略）	学　位
AL FARRAJ ZIAD	博士（学術）

■情報科学研究科の齋藤徳誠講師が「日本蛋白質科学会年会」で受賞
2022年6月、「第22回日本蛋白質科学会年会」において、情報科学研究科の齋藤徳誠講師が「日本蛋白質科学会若手奨励賞」を受賞。

■芸術学部の藤江竜太郎講師らが「第22回　CSデザイン賞　一般部門」でグランプリを受賞
芸術学部の藤江竜太郎講師とデザイン工芸学科立体造形分野の学生が2020年に制作した、横川駅南北自由通路の壁画「金運のみち」が、2022年7月、株式会社中川ケミカルが主催するCSデザイン賞のグランプリを受賞。

■情報科学研究科の森田博人さんと寺岡純さんが国際会議「IIAI AAI 2022」で受賞
2022年7月、国際会議「IIAI AAI 2022」において、情報科学研究科（博士前期課程）2年の森田博人さんと寺岡純さんが「Outstanding Paper Award」を受賞。

■芸術学研究科の土井紀子さんが「FEI PURO ART AWARD」で入選
2022年8月、芸術学研究科（博士後期課程）2年の土井紀子さんが「第1回FEI PURO ART AWARD」のトレンド部門に入選。

■芸術学部の教員・学生らが「再興第107回院展」に出品
芸術学部日本画専攻の前田力進教授が文部科学大臣賞を受賞、芸術学研究科（博士後期課程）1年の村上明花里さんが初入選。

■情報科学研究科の亀山勇希さんが国際会議「ICICIC 2022」で受賞
2022年9月、中国現地とオンラインのハイブリッド開催で行われた国際会議「ICICIC 2022」において、情報科学研究科（博士前期課程）システム工学専攻2年の亀山勇希さんの論文「Impact of Changes in Vehicle Sound on Driver Attention and Event-Related Potentials」が「Best Presentation Award」を受賞。

※学年、職位は受賞当時

市大ニュース

■科学技術振興機構の「大学発新産業創出プログラム　スタートアップ・エコシステム形成支援」に採択されたプラットフォーム「PSI」に参画します
科学技術振興機構（JST）の支援施策である「大学発新産業創出プログラム（START）スタートアップ・エコシステム形成支援」の選考結果が5月に発表され、プラットフォーム「PSI（Peace & Science Innovation Ecosystem）」が、令和3年度補正予算及び令和4年度本予算（計画期間5年間）の双方に採択されました。なお、本学は共同機関として参画します。

■レンス第2大学の交換留学生がインターンシップを始めました
5月、本学の海外学術交流協定大学であるフランスのレンス第2大学応用言語学科修士課程国際ビジネス専攻ヨーロッパ・アジアコースから、初めて「インターンシップ付き交換留学生」として、クラリス・トレグロサさんを受け入れました。

■「寄付型私募債」による寄附を頂きました
6月、寄付型私募債の発行に伴いインダストリーオカガワ株式会社様および株式会社もみじ銀行様より広島市立大学基金に寄附を頂きました。寄附は、本学における教育、研究、社会貢献等の一層の充実と振興に資するために活用させていただきます。

■市大生51人が「こみゼロ・クリーンキャンペーン」に参加しました
6月5日、広島市内で「こみゼロ・クリーンキャンペーン」が行われました。今年はコロナ禍を経て3年ぶりに実施され、全体で1,051人、本学からは、課外活動団体「S2」のメンバーを含む学生51人、学長をはじめとする教職員4人、計55人が病町公園を出発点とするルート周辺の清掃に取り組みました。

■産学官連携推進協力会を設立しました
広島市立大学と地域産業界や行政機関等が協力して、地域に貢献できる人材を育成するため、また、技術交流や情報交換を活発に行うことで地域産業の活性化、高度化、地域社会の持続的な発展を目指すために、広島市立大学産学官連携推進協力会を設立しました。

■アサヒグループジャパン・広島市立大学芸術学部共創ゼミが開始しました
日本の森林環境・生物多様性・自然と人間の共生をテーマにした、アサヒグループジャパン株式会社との共創ゼミが始まりました。講義やアサヒグループホールディングス所有の「アサヒの森」での現地体験を経て、学生達が森の素材を使ったアート作品制作、間伐材を利用したプロダクトデザインやグラフィックデザイン、映像制作などを行います。

■軟式野球部が全国大会出場に出場しました
軟式野球部が「全日本大学軟式野球選抜大会」に出場しました。2018年に出場して以来の躍進です。「第7回中四国ブロック選抜大学軟式野球大会」で初戦を7回コールド勝ち、決勝戦を延長の末タイブレークで勝ち越して、全国大会の出場権を得ました。

■ビースイッター2022「とうろう流し」委任式に本学学生が参加しました
8月6日、マツダスタジアムにて「平和を願う「ビースイッター2022」が行われ、本学学生ボランティアが「とうろう流し」委任式に参加しました。

■オンライン国際交流・異文化理解プログラム（アメリカ・韓国・タイ・台湾）を実施しました
2022年度前期は、セントメアリーズ カレッジ（アメリカ）、慶北国立大学校（韓国）、シラパコーン大学（タイ）、台中科技大学（台湾）の各大学で日本語を学んでいる学生と、オンラインで交流しました。

■「ひろしま金ダンス」のモニュメントを本学芸術学部の学生らが制作しました
8月13日、14日に開催された「ひろしま金ダンス」において、会場に設置されたモニュメントを芸術学部デザイン工芸学科3年の山口雄人さんと田邊綾さん、芸術学研究科（博士前期課程）1年の川端万結子さんが制作しました。

■外部資金の獲得
本学の教員は、国の制度である科学研究費補助金や民間からの研究費などを受けて活発な学術研究活動を行っています。これらの外部資金を活用し、独創的・先駆的な研究に取り組んでいます。

●2022年度科学研究費補助金採択状況<研究科目別>

研究種目名	件数	計
基盤研究(A)一般	0	0円
基盤研究(B)一般	2	7,020千円
基盤研究(C)一般	44	44,395千円
若手研究	8	9,880千円
研究活動スタート支援	2	2,470千円
国際共同研究加速基金	1	（交付申請前）
合計	57	63,765千円

●2021年度受託研究費・共同研究費・補助金・奨学寄附金

区分	件数	金額
受託研究費・共同研究費	47	48,980千円
補助金	3	21,311千円
奨学寄附金	11	9,966千円
合計	61	80,257千円

教員の人事異動

区分	氏　名	職　名
退職	増谷 佳孝	情報科学研究科教授（8月31日付け）

表紙作品

2021年度 芸術学部美術学科 卒業制作
GIANT KILLING（ジリアテの再像）より一部
大江 さとみ（彫刻）
GIANT KILLING（ジリアテの再像）
サイズ可変（大理石原像：H600×W500×D450）
大理石、樹脂（2分35秒）
2021年度卒業制作
卒業制作優秀賞・芸術資料館買上

「WEST BREEZE」へのご意見・ご感想を募集します

広島市立大学　広報委員会
○E-mail：kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp
○Tel：082-830-1666　○Fax：082-830-1656
WEST BREEZEのバックナンバーは、大学ウェブサイト［大学紹介］>［大学広報］>［広報誌「WEST BREEZE」］に掲載しています。

広報誌名
広島市立大学広報誌の表紙タイトル「W.B.」（「WEST BREEZE」の略称）は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。

編集・発行／広島市立大学 広報委員会
発行日／2022年12月1日